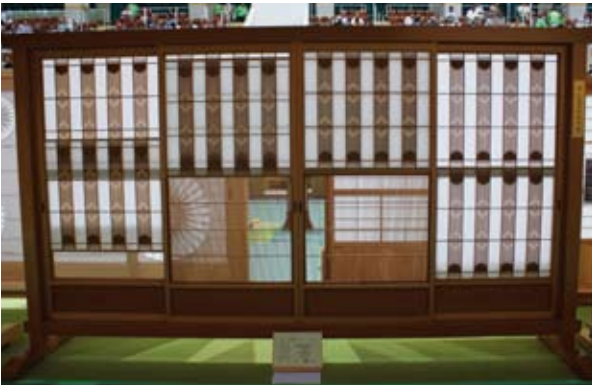


建具業者の年に1度の全国規模の展示会である第44回建具フェアが、6月18日(金)～20日の3日間秋田県秋田市の秋田県立武道館で開催された。同フェアは、全国巡回型のフェアで昨年は静岡県、来年は岐阜県で開催。6大臣省をはじめとした伝統建具の名品が集まり、毎年1000～1500人の建具業者が全国から



集まり秋田大会は1万5000人の来場者でにぎわった。伝統建具は、日本旅館・寺社仏閣・料亭などが主な用途で、住宅向けには、工業品・海外製造品が普及。価格高のほかに「和から洋」への住まいの移り変わりで納入が少ないのが実情だ。全国的組織である全建連(全国建具組合連合会)の加盟者約



山形県建具組合連合会で発表した「耐震補強建具」

和室の建具は耐震室に 応用が可能か？

3000社も、年間1000社のペースで減少しつつづけている。

本誌で注目したのは、山形県建具組合連合会で発表した「耐震補強建具」である。これは障子内部に55mmの枠と80mmの筋交いを入れ、12mm構造用合板2枚を芯材の両側に組み込んだ耐震補強建具である。座敷用の間仕切り襖戸4枚組の両端を筋交いと構造用合板を組み入れた耐震補強建具に入れ替えて固定することで開口部を補強したり、居室用の掃き出し窓2枚建の1枚を耐震補強建具に入れ替え固定する。障子と思ったら実はイミテーションで耐力壁という商品である。